

# 1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	芸術科	科目	デザイン		単位	1	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1 年	8・9 組		
使用教科書	高校生の美術1 (日本文教出版)						
使用副教材							

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

<b>学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか</b> デザインは用途があって制作されるもので、グラフィック、プロダクト、インテリア、建築、映像など多岐な分野に渡る。 1年次ではデザインの考え方を学び、デザイン実習の基本要素として最低限必要な課題の実習を目標とする。またコンピューターグラフィックスの基本操作も実習する。
<b>学習内容：この科目で学習する大まかな内容</b> 平面構成はデザイン実習の基本となる課題で、1は色彩論を応用した配色研究。2は言葉のイメージを視覚的に表現する平面構成である。 コンピューターグラフィックスはフォトショップの基本操作を学ぶが、単にその技術を習得する時間ではなく、デザインの様々な課題の中に組み入れて実習される。 1月にCGで制作する作品は、情報を第三者に分かりやすく印象的に伝えるためのデザインの課題。
<b>学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか</b> (1) 学校 (1) 学校 主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。 (2) 家庭 夏期休業と冬期休業に出題されるコンクールに向けた課題の制作







# 3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)






<b>評価方法：何を使って評価するのか</b> 完成した作品によって評価する。 技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。 各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。	
評価における定期考査の割合	0 %

# 4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

<b>評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか</b> (1) 関心・意欲・態度 課題に取り組む意欲、態度  (2) 思考・判断 課題を理解し、目的を持って思考する力、アイデア  (3) 技能・表現 構成力、色彩感覚、表現力、描写力  (4) 知識・理解 コンピューターグラフィックスの知識と理解
--

## 5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	5	<p>■「コンクールポスター1」</p>   <p style="text-align: center;"><b>道徳</b></p>	<p>「ポスターコンクール応募」                      連休中の自宅課題約                      コンクールに出品する作品を制作する家庭課題                      「暴力団追放」「防犯ポスター」                      以上から一つを選んで制作し出品する                      ※画材、用紙のサイズは各コンクールの規定にあわせる。</p> <p>道徳教育を実施</p>	●	●	●	●	○
1	5 ~ 7	<p>「平面構成1・色彩演習」</p>  	<p>■「平面構成1・色彩演習」                      B3ケント紙にアクリルガッシュ                      12時間                      配色を検討する段階ではCGを使用</p> <p>4月から5月にかけて学習した色彩論を確認し、応用した課題。                      コンピューターグラフィックスの基本操作も学ぶ。                      平面構成の基礎課題。</p> <p>以下の条件で配色を決めて制作                      A=色相が対照的／B=色相が類似                      C=明度が対照的／D=彩度が対照的                      E=寒色／F=暖色                      G=トーンを類似させ、色相に変化をつける                      H=トーンに変化をつけ、色相を類似</p> <p>評価のポイント                      条件を満たした配色であること                      G・Hは条件内でより美しい配色であること                      作図が正確で仕上げがきれいであること</p>	●	●	●	●	○
2	8	<p>「コンクールポスター2」</p>   <p style="text-align: center;"><b>道徳</b></p>	<p>「ポスターコンクール応募」                      夏季休みの自宅課題約                      コンクールに出品する作品を制作する家庭課題                      「緑化運動」「防火運動」「薬物禁止運動」「明るい選挙」                      以上から一つを選んで制作し出品する                      ※画材、用紙のサイズは各コンクールの規定にあわせる。</p> <p>道徳教育を実施</p>	●	●	●	●	○

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
2	8	■「エディトリアルデザイン」   	■夏期ゼミ課題 「雑誌のページを想定したレイアウトデザインの制作」 20時間 A3サイズ、横、CG タウン誌のような、身近な所を紹介する雑誌を想定し、テーマをみつけ、資料を集める。 地図、施設案内図をデザインする。 資料を基にして、視覚的に美しく、読みとりやすくデザインされた雑誌ページを制作する。 魅力的な情報が盛り込まれており、より分かりやすく、興味を引くデザインを目指す。 完成後プレゼンテーションを行う。  ■評価基準 テーマに対してアプローチが正しい判断であるか。効果や対比が的確であるか。丁寧な仕事運びが為されているかどうか。	●	●	●	●	○
2	12 ～ 1	■「平面構成2・色と形の効果」   	■「モチーフ構成（アルファベットをモチーフとする）」 B3ケント紙にアクリルガッシュ 14時間  配色を検討する段階ではCGを使用 平面構成の応用課題。 与えられた条件の理解。 コンピュータグラフィックスを効果的に使用しながら、色と形の構成により如何に言葉のイメージが伝わるのか模索していく。 与えられた条件の理解。  ■評価基準 条件を満たした配色であること G・Hは条件内でより美しい配色であること 作図が正確で仕上げがきれいであること	●	●	●	●	○
		■「コンクールホスター3」     	■「コンクールポスター3」 コンクール出品に対応したポスターの制作 冬期休業の自宅課題 「県高総体ポスター他」 ※画材、用紙のサイズは各コンクールの規定にあわせる 冬期休業明け、放課後仕上げる。	●	●	●	●	△

## 1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	芸術科	科目	絵画	単位	1	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1 年	8・9 組	
使用教科書	高校生の美術1 (日本文教出版)					
使用副教材						

## 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

<b>学習目標</b> ：この科目を学習して何を身につけてほしいのか
絵画では絵画表現全般を実習する。油彩、透明水彩による着彩等、各画材の組成と特性を知り、基本的な使用法を学ぶ。 デッサンで実習した表現を色彩に置き換えた制作を習得する。 2年次以降に制作する大型の作品、また自由制作につなげる準備段階として、多様な絵画表現を目標として学習する。
<b>学習内容</b> ：この科目で学習する大まかな内容
「スケッチ演習」 年間1回の課題。1学年は構図の取り方等、風景画の基礎と透明水彩絵具の効果的な使い方を学ぶ。 「着彩・静物」 透明水彩絵具と不透明水彩絵具の基本的使い方と違いを実習。確かなデッサン力と色彩表現を学ぶ。 「油彩・自画像」 油彩画の基本的使い方を実習。自画像をモチーフに、人物画を学ぶ。
<b>学習方法</b> ：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか
(1) 学校 主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。 スケッチは美術コースの行事、「校外スケッチ実習」で2日間、野外に出かけて制作する。 その後各自で加筆して仕上げる。  (2) 家庭 無し

## 3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

<b>評価方法</b> ：何を使って評価するのか
完成した作品によって評価する。 技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。 各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。
評価における定期考査の割合
0 %

## 4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

<b>評価の観点</b> ：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか
(1) 関心・意欲・態度 課題に取り組む意欲、態度
(2) 思考・判断 画面全体を構成する総合的判断力
(3) 技能・表現 構成力、色彩感覚、表現力、描写力
(4) 知識・理解 透明水彩、油彩、アクリル絵具等、画材知識の理解度





【SDGsの各ターゲットについて】

ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】

高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は  
アイコンをクリック



※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に  
コピーしてご使用下さい

### SDGsターゲットアイコン



### 道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に  
コピーして下さい

### SDGsターゲットアイコン



### 道徳教育アイコン

# 1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	芸術科	科目	日本画		単位	1	単
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1 年	8・9 組		
使用教科書	高校生の美術1 (日本文教出版)						
使用副教材							

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

**学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか**

日本画の授業では、膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など伝統的な専門技法を学習しまた日本画特有の空間表現を学ぶ。

1年次は日本画の基礎として、デッサン力を養い、観察と細密描写を中心とした課題で実習する。静物描写の課題のなかで絵具、素材に対する表現技術を習得する。主に顔彩を使用し、来年度以降に向けて岩絵具の実習も盛り込みながら、日本画の基礎実習を目標とする。

**学習内容：この科目で学習する大まかな内容**

日本画は専門講師が指導し、画材等のセッティングが大掛かりなため、約1ヶ月の集中授業の形式で学習する。1年次では日本画実習の基本となる、水彩による写生を中心に実習し、併せて日本画材の基礎も学ぶ。

画材は「顔彩」を主に使用し、岩絵具は背景のみ使用する。顔彩はこれまで使用してきた水彩絵具と扱い方が同じである。モチーフはスルメと野菜、果物などの自然物の組み合わせを予定。スルメは複雑な色作りと、徹底した細部の描写を学ぶのに適したモチーフである。

彩色に入る前に墨描きを実習し、筆による線の抑揚で形の変化を表現する。

**学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか**

(1) 学校

主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使うって集中した制作を行う。放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。

(2) 家庭

無し

# 3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

**評価方法：何を使って評価するのか**

主に完成した作品によって評価する。

技術的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。

評価における定期考査の割合

0 %

# 4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

**評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか**

(1) 関心・意欲・態度

課題に取り組む意欲、態度

(2) 思考・判断

画面全体を構成する総合的判断力

(3) 技能・表現

デッサン力、色彩感覚、表現力

(4) 知識・理解







【SDGsの各ターゲットについて】  
ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】  
高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は  
アイコンをクリック

道徳

※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に  
コピーしてご使用下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン



下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に  
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

1

# 1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	芸術科	科目	美術Ⅱ		単位	1	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	1 年	8・9 組		
使用教科書	高校生の美術1 (日本文教出版)						
使用副教材							

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

<b>学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか</b> 1年生美術Ⅰでは、①デッサン、②美術理論（色彩論と透視図法）、③彫塑という3つの領域で学習する。 ①本コースの実技指導は、綿密な観察力と描写力を土台としているため、デッサンの実習には最も力を入れて学習する。 1年次では基本的な物の見方、表現方法の習得を目標とする。 ②美術理論、色彩論は作品の色彩計画の基準となる知識を学習する。 3学期の最後には各種の透視図法を学び、アトリエの室内を描いて実習する。 ③彫塑の課題は年間1回実習する。全方向からのデッサン力を養い、形の構造を理解する上で非常に重要な課題である。
<b>学習内容：この科目で学習する大まかな内容</b> ①はデッサンの基礎演習の実習。1学年前期では基本形体の描写、素描画材の扱い等、基本的な部分を確実に修得し、後期は自画像等発展的なモチーフを描く。 ②美術理論では、前期は色彩論を学習する。色相環の理解、色の三属性の理解から、色彩論を応用した配色の演習を行う。後期は図法を学習する。三面図の読み取りと作図、多角形の作図を中心に学ぶ。 ③彫塑では、立体造形の最初の課題として「握った手」をモチーフに、彫塑用粘土を使って制作する。
<b>学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか</b> (1) 学校 デッサンと彫塑は主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。  (2) 家庭 色彩論は、定期考査で出題されるため、自宅での予習、復習が不可欠である。






# 3 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

<b>評価方法：何を使って評価するのか</b> ①デッサン、③彫塑は主に完成作品で評価する。技能的、創造的に優れた作品を評価する他、完成するまでの課程、取り組みの姿勢を見る。 各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。 ②色彩論は、主に定期考査で評価する。考査は授業内容から出題される確認テストで、その得点によって理解の度合いを計る。また授業中の態度、課題提出状況等を平常点として加える。
評価における定期考査の割合 50            %

# 4 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

<b>評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか</b> (1) 関心・意欲・態度 課題に取り組む意欲、態度  (2) 思考・判断 デッサンでの総合的判断力、色彩論・図法の知識を応用する力  (3) 技能・表現 デッサンでの描写力、表現力、彫塑での造形力  (4) 知識・理解 形態の構造や遠近法、色彩論、透視図法の理解度
--

## 5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4 ~	「静物デッサン 基本形体の描写」   	「立方体、球体、円柱のデッサン」9時間 使用教室第1アトリエ 15時間/A3画用紙/鉛筆 配布されたモチーフを鉛筆デッサンする描写を理解する上で基本となる、立方体、球体、円柱の描写表現を理解する。 木の立方体、テニスボール、紙コップをモチーフに描く。 鉛筆、練り消しゴムなど用具の使い方 構図 基本形体の把握 明暗の表現 質感の表現 空間の表現	●	●	●	●	○
1	5	「色彩論」 色彩の基礎知識の学習    <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">道徳</div>	「色彩論」6時間 使用教室：第2コンピューター室 色彩の基礎知識を学習。色の基本的な要素を学び、それを使って類似や対照、面積や配置などを配色の演習を行う。学習内容を今後のデザイン、絵画制作に活かす。 5月に実施するデザインの課題「平面構成色彩演習」と連動した課題 ユニバーサルデザインを通し道徳教育を実施	●	●	●	●	○
1	5	「第一回査 筆記試験」 色彩論」    <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">道徳</div>	「第1回査・色彩理論」 1時間/筆記試験 授業内容の理解度を確認する筆記試験。 色相環の理解 色の名称 色の明度、色相、彩度の理解 三原色の理解 トーンの名称 色彩論を応用した配色の理解	●	●	●	●	○
1	6	「第2回査 デッサンコン クール」  	「第2回査静物デッサン」 2時間/配布モチーフ/ コンクールサイズ 画用紙/鉛筆 ※全学年で行うデッサンコンクール	●	●	●	●	○
2	10	「第3回査 デッサンコ ンクール」  	「第3回査 デッサンコンクール」 2時間/手のデッサン コンクールサイズ/鉛筆 ※全学年で行うデッサンコンクール	●	●	●	●	○
2	10	「自画像 木炭デッサン」   	「自画像 木炭デッサン」 鏡に映る自画像を描く 21時間/木炭紙/木炭 明暗で大きく形態をとらえる描き方を学ぶ。 1月に実習する自画像油彩につなげる。	●	●	●	●	○



【SDGsの各ターゲットについて】

ちょっとだけ詳しく内容を知りたい方は、アイコンをクリック



【道徳教育について】

高校の道徳教育についてちょっとだけ知りたい方は  
アイコンをクリック



※FSVに接続してる場合のみ

下のアイコンは、該当する「学習の内容」の場所に  
コピーしてご使用下さい

### SDGsターゲットアイコン



### 道徳教育アイコン





アイコンは、該当する「学習の内容」の場所に  
コピーして下さい

SDGsターゲットアイコン



道徳教育アイコン

